

施策評価シート(令和3年度実施施策)

総合計画 体系	政策№	3	政策名	健やかで人にやさしいまちづくり	施策主管課	健康ふくし課
	施策№	3-2	施策名	高齢者福祉の充実	施策主管 課長名	平山 正孝
関係課	健康ふくし課					

1. 施策の目的

対 象	A 町民・地域	意 図	A 近所の高齢者を地域で見守っている
	B 高齢者		B 健康の維持に努めるとともに、積極的に社会参加している

2. 成果指標

指標名		単位	現状値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
A 認知症サポーターの数（増加）（現状値：H30時点）	人	4,610	5,299	5,474	5,625	5,759	5,879	
			6,119					
B 要介護の高齢者の割合（要支援を除く）（維持）（現状値：H30時点）	%	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	
			16.7					

3. 指標の分析（成果が向上した、またはしなかった理由）

一般向けの認知症サポーター養成講座を集いの場や民生委員総会などで行ったほか、町内小中学校、県立大沼高校の児童生徒を対象に講座を開催した事により、幅広い世代に認知症サポーターを養成する事ができ目標を上回った。
高齢者人口の増加に伴い65歳以上の被保険者数は年々増加している。新規の介護認定者数については、病気等により入院した高齢者が退院する際に介護が必要なケースが増えており認定者も微増ではあるが、しかし被保険者及び認定者がともに増加傾向であることから、全体的な認定率にあっては横ばいとなっている。

4. 課題に対する取組（今年度重点的に取り組んだ課題）

集いの場を中心に実施した介護予防事業では口腔ケアを予防メニューに取り入れた。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため集いの場の活動が中止となった時期があったため、高齢者の日常生活機能維持のための介護予防に重点を置いて取り組んだ。

5. 次年度の方向性（施策の方向性と次年度以降重点的に取り組む課題）

集いの場を中心として実施する介護予防事業ではうんどう教室、保健師や管理栄養士による健康相談、健康教室、歯科衛生士による口腔指導を実施し、高齢者のフレイル予防を行い要介護認定の抑制に取り組む。

6．施策を構成する事務事業（方向性と次年度以降重点的に取り組む主要な事業）

番号	事業通番	事務事業名	令和3年度決算額 (千円)	最終評価結果			主要事業
				成果の方向性	コストの方向性	今後の方向性	
1	14446	認知症対策総合支援事業	5,375	現状維持	現状維持	⑤現状維持	○
2	14533	家族介護支援事業（家族介護リフレッシュ事業）	894	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
3	14539	その他事業（成年後見制度利用支援事業）	1,845	拡充	拡大	①有効性改善	○
4	14565	一般介護予防事業	924	現状維持	現状維持	⑤現状維持	○
5	14644	生活支援体制整備事業	5,598	現状維持	現状維持	⑤現状維持	○
6	16716	介護保険事業	452,626	評価対象外	評価対象外	評価対象外	
7	16717	シルバー人材センター運営支援事業	4,521	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
8	16718	ふれあい福祉基金積立金事業	1,830	評価対象外	評価対象外	評価対象外	
9	16719	高齢者在宅福祉サービス事業	25,545	現状維持	縮小	③効率性改善	○
10	16720	老人福祉施設入所者保護措置事業	9,556	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
11	16721	敬老事業	6,558	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
12	16722	老人クラブ活動支援事業	34	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
13	16723	介護サービス利用者負担軽減措置事業	29	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
14	16727	高齢者福祉施設管理事業	11,242	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
15	16728	老人福祉施設管理事業	23,689	縮小	縮小	⑥段階的縮小	